令和6年度　　学校関係者評価（学校運営連絡協議会委員）　　A～Gは各委員　　令和7年2月28日

青梅市教育委員会の基本方針		項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	委員 A	B	C	D	E	F	G	平均	評価	コメント A	B	C	D	E	F	学校の見解と今後の方向性
1－1	人権教育の推進	グローバル教育の推進	社会に貢献できる人間の育成	他者を思いやる心と態度を育てる。	学習や活動を通して、自分を取り巻くすべての人を大切に思う心を育む。	A	・保護者100%児童98%の肯定的評価であった。 ・朝会等の集まる機会で講話を実施したことが高評価につながったと考える。	・講話での指導から、児童の自発的な活動も進めていく。	A	A	A	A	A	B	A	3.9	A	第一回と比較して非常によくなっている。思いやりの心、大切なことだと思います。	引き続き様々な取組をお願いします。		やさしい子供が多い。	学校訪問の時や、授業風景を見ていると、先生と生徒に安心感をもちます。		非常に良いとの評価をいただきました。今後も児童の心の育成について、児童朝会に限らず様々な場面で行ってまいります。
1－2	心の教育の推進																							
1－3	健全育成の推進			生活・学習規律の徹底とたてわり活動による自己有用感を育てる。	学校と家庭が協力し、児童の規律ある生活の定着を図る。	A	・保護者91%児童81%の肯定的評価であった。 ・保護者会等で学校での取り組みをお話し、保護者も協力していただけたことが高評価となったと考える。	・あいさつなど、今後も保護者・地域と協力していく。	A	A	A	A	A	B	A	3.9	A	明るいあいさつができている。	成木保育園・成木小学校・第七中学校との望ましい週間の形成（第七中学校区）をさらに啓蒙してほしい。		元気にあいさつする子供が多い。	学校側や周辺の努力が生きています。	各学年、よく指導はしていると思うが、きまりを守る点に関しては、もう一歩かなと思う。（全体での決め事等）	非常に良いとの評価をいただきました。あいさつの場面では、姿勢、目線、声など、相手意識をもってできるよう引き続き指導してまいります。
1－4	社会に貢献できる個人の育成				学校生活の中で、自分のすべき役割に気付くとともに、体験と通して責任ある行動ができるようにする。	A	・保護者95%児童98%の肯定的評価であった。 ・朝会での姿勢などからも充実した学校生活が伺える。行事や活動を通して多くのことを学べたと考える。	・学級での係活動や委員会の当番活動などで、丁寧な支援を行っていく。	A	A	A	A	A	A	A	4.0	A				与えられた役割は、しっかりやるが、できていない仕事を探して手伝うことはもう少し。	体験をして「汗水」流し、責任感を強くしてもらいたい。	成木小まつりなど、学年交流が多いのは良いことではあるが、低学年の上級性に対しての言葉遣いが気になることもある。	非常に良いとの評価をいただきました。「楽しかった」だけに留まらず、振り返りを実施し、価値付けることで学びの定着を今後も図っていきます。
2－6	キャリア教育の充実	異学年交流の充実と人間力の向上	自らの生き方を考える力と関わり合いの育成	社会のよき形成者になろうとする気持ちを育てる。	たてわり班による異学年集団での活動や学習を通して、自己有用感を育成する。	A	・保護者91%児童93%の肯定的評価であった。 ・異学年との活動の中で、一人一人が学校の形成者であることを自覚できていると考える。	・上級生から伝えていく活動を行うとともに、できたことを捉えて価値付けていく。	A	A	A	A	A	B	A	3.9	A	たてわり活動は自己有用感を育てるには大変よいと思う。		成木小特有のたてわり班は、今後も続けて行かなければならない素晴らしいことだと思います。	学年関係なく仲がよいが、反面兄弟げんかのような場面も見られる。	たてわり班をおおいに活用しましょう。	もう少し子供同士の交流があってもよいと思う。	非常に良いとの評価をいただきました。たてわり活動は、伝え方、接し方などを考える機会となっています。今後もより良い学校生活を過ごすために主体的に考えさせていきます。
2－9	小・中学校における一貫教育の推進			互いにかかわりあう力を育てる。	かかわりあいを通して教え合う喜びを学ぶとともに、相手を理解しようとする心情を育てる。	B	・保護者78%児童86%の肯定的評価であった。 ・「わからない」の回答が13%あることから、取組の様子や意義が伝えきれなかったと考える。	・保育園や中学校との交流の様子について発信するとともに、成長の様子を紹介していく。	B	B	A	B	A	B	B	3.3	B	保育園、中学校との交流の時間が、どのくらい取れているのか分かりませんが、かかわりを大切にしてもらいたい。	成木保育園や第七中学校との交流の成果を広めてください。	様々な行事がありますが、必ずと言ってよいほど、保育園・中学校の生徒を見かけます。成木小特有の良いことだと思う。		昔から「見て見ぬふり」と言う言葉、思い出しました。人の力になれれば良いことですよね。	人数が少ない分、一人一人がしっかり発表しないといけないと言う意識がよい方に出ていると思います。運動会もとちの実発表会も皆、よく頑張っていました。	概ねよいとの評価をいただきました。交流する機会をご覧いただく機会は少ないですが、たよりやホームページでお伝えできるようにしてまいります。
2－10	幼児期の教育と小学校教育の接続																							
1－5	地域に根ざした郷土愛をはぐくむ教育の推進	SDGsの理解と実践	表現力の育成と青梅・成木の自然を活かした環境教育の充実	発表場面を活かした表現力の育成と自然体験を通してSDGsの理解を深める。	体験活動を通して、自分と自分を取り巻く環境と関係について考える力を育てるとともに、発表する場面を活用し、自分の考えを伝える力を育てる。	A	・保護者95%児童79%の肯定的評価であった。 ・体験活動から振り返りや発展学習へと変えていくことで、経験として成長の一端となっていると考える。	・活動するだけにならないよう振り返りと次の課題設定を丁寧に行っていく。	A	A	A	A	A	A	A	4.0	A	多くの体験をすることは、児童にとても重要なことで、少人数ならではの良いところを生かしてもらいたい。	体験活動から探求心や課題解決力を高めてください。	以前、若林さんの代わりに校長がSDGsの講演？はとてもよかったです。		青梅そして成木「自然」と「森」と「畑」「川」ときれいな「水」、きれいな「空気」。体験学習・授業で最重要のあことの一つとして頼りにする若い人に次世代を盛り上げる学習を続けてください。		コロナもあけたことであるので、少しずつ運動会も地域の人たちと交流できるプログラムも加えていいのではと思います。	非常に良いとの評価をいただきました。成木についての知識だけでなく、成木のよさに気付き、主体的に大切にしていこうとする気持ちをこれからも育てていきます。
6－3	特色ある学校づくりの推進				地域の自然や歴史、文化の教材化や地域人材の活用を積極的に図るとともに、児童が多様な人々と交流・活動を行うことにより、地域及び世界の環境や平和を大切にする教育を推進する。	B	・保護者73%児童84%の肯定的評価であった。 ・「わからない」の回答が22%であることから地域学習の取組を紹介できていなかったと考える。	・地域の方々に協力いただいていることの発信、児童の感謝の気持ちが伝わるように工夫をしていく。	B	B	A	B	A	B	B	3.3	B	保護者、児童の肯定的評価が下がっている。教育内容の工夫が必要だと思う。			地域の特性を生かし、地域の人たちともっとかかわってほしい。	地域を学んで豊かな自然を活用し、素晴らしい青梅にしていきましょう。		概ねよいとの評価をいただきました。今年も学芸員の方やユニセフセンターの方など、青梅市内だけでなく、遠方からも講師に来ていただきました。歴史面についても今後取り入れていきたいと思います。
2－1	学力向上	学力の向上	個に応じたプログラミング教育の充実	基礎基本の徹底とプログラミング的思考・国際感覚を養う。	個別指導を充実させた授業により基礎・基本の学力を定着させるとともに、学んだことを活用することでプログラミング的思考力を育てる	B	・保護者77%の肯定的評価であった。 ・基礎基本の定着に努めてきたが、学んだことを活用するまで至っていないとの評価であった。	・少人数指導に期待する気持ちを忘れず、学んだことを生かす場面を創出する。	A	B	A	B		A	B	3.5	A	少人数の良いところを生かした活動ができている。	少人数指導の工夫をさらに力を入れてください。				ALTの先生がどのくらい授業をしているのかわからないが、低学年の子が英語の歌を歌ってたりするので、低学年から英語に慣れ親しんでいるんだなと思っています。	非常に良いとの評価をいただきましたが、保護者アンケートでは、評価が低迷しているため、家庭との連携し、基礎基本の定着を進めていきます。また、プログラミング的思考を意識した授業展開ができるよう研鑽してまいります。
2－4	国際理解教育の推進		英語教育の充実		ALTと連携し、話す必然性のある授業を通して、英語に親しみ進んで活用しようとする態度を育てる。	C	・保護者65%児童48%の肯定的評価であった。 ・英語の学習は「わからない」との評価が20%、「あてはまらない」10%あり、児童の定着が出来ていないとの評価であった。	・英語の学習場面を設定するとともに、どんな学習をしているか紹介していく。	B	C	B	C		A	B	2.8	B	小学生からの英語学習は非常に良いと思う。児童が楽しくなる学習・活用を心掛けていただきたいと思います。	肯定的評価をさらに伸ばすようによろしくお願いします。		この時間は英語であいさつしようなども一案。		個人差があるが、外でのびのびと遊べる環境にあり、入学時にはあまり運動をせず、体力がなかった子供たちも学年があがるにつれて、ずいぶん体力をつけていると思う。	概ねよいとの評価をいただきました。英語が教科となり、まだまだ研鑽が必要です。楽しく学べるよう努めてまいります。
2－3	健康の保持増進・体力向上	体力の向上	健康・安全の教育の徹底	体力向上と健康増進についての意欲を育てる。	運動する機会を生かし、運動する喜びと体力の向上を図る。	B	・保護者81%児童94%の肯定的評価であった。 ・運動会やマラソン大会を通して、児童の様子を見ていただけたが、「わからない」の評価が14%あり、集会での様子など伝えきれていない。	・なわとび集会やたてわり遊びなど、計画的に実施している運動遊びを紹介する場面を設定する。	A	B	B	B	A	B	B	3.3	B	児童の評価がとても良い。 引き続き体力向上に取り組んでいただきたいと思います。		地域の特性を生かし、自然の中を歩いたり、体力の向上を図るのもよいのでは。		学校訪問の折、見かけます。寒いのに半袖で運動、こちらは重ね着、若いころはいいですね。現在の指導で盛んに続けてください。	他の学校の授業について分からないので何とも言えないが、学校内では十分活用しえいるように思う。	概ねよいとの評価をいただきました。運動するのが楽しいと感じる児童も多く、休み時間も外に出て遊ぶ児童が多くなってきたようです。運動のよさなどを今後は伝えていくようにします。
2－2	ＩＣＴの活用と情報活用能力の向上	ＩＣＴの活用	活用力の向上	あらゆる場面で利用できる力を育てる。	一人一台端末を活かし、個別最適な授業を行うとともに、活用を工夫することで児童の学力を向上させる。	C	・保護者53%児童84%の肯定的評価であった。 ・端末の持ち帰りも少なく、宿題としてタブレットを利用することも少なかったことが低評価の理由と考える。	・電子ドリルの積極的活用やタブレットの持ち帰りなどを進めていく。	C	C	B	C		A	C	2.5	B	児童の「あてはまらない」の率が上がっているのが気になります。積極的活用を進めてください。	タブレットを使用した指導等の研究を深めてほしい。		一人一人はすばらしが、利用時間や内容に制限があり難しそう。			概ねよいとの評価をいただきました。活用については、期待も高いと感じています。持ち帰りなどの機会を検討し、家庭と学校で協力して学びを深めていけるようにしてまいります。
2－5		情報教育活用能力の向上	情報活用・選択力向上	情報を適切に活用する力を育てる.	情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度を育成する。	C	・保護者58%児童93%の肯定的評価であった。 ・授業の中で情報活用の場面が少なかったと考える。また、「わからない」の評価が32%あり、紹介する場面もなかった。	・なかなか紹介しづらい部分もあるが、展示や参観などで学習の様子を伝えていく。	B	C	B	C		A	C	2.7	B						少人数ならではの細かな指導ができていると思います。先生たちの熱心さに頭が下がることもあります。	概ねよいとの評価をいただきました。情報モラルについて、保護者会や懇談会、学校公開を利用して伝えていくことや、東京都のパンフレットなどを活用し意識を高めていきたいと思います。
2－7	その他の重点	すべての児童の理解と指導法の共有理解	児童の特性に応じた指導	児童の特性を共通理解し、通した指導を検討する。	児童の状況について共通理解を図り、適切な対応と指導方法について相談することで、児童の学校生活を充実したものにする。	A	・保護者100%の肯定的評価であった。 ・保護者会や来校時に保護者と話す機会を多く得られたことが高評価につながったと考える。	・児童についての共通理解をさらに深め、統一した対応や指導を行っていく。	A	A	B	A	A	A	A	3.9	A	少人数ならではの指導ができていると思う。	とてもよい評価です。			大人も子供も人それぞれですから、学校さんも大変でしょうが、これからも活躍をお願いいたします。	学校からの情報の発信をもっとしてもいいのではないか。	非常に良いとの評価をいただきました。今後とも一人一人の児童について共通理解を図り、よりよい指導ができるようにしてまいります。
2－8																								
6－2		保護者・地域に寄り添った学校づくりの推進	保護者・地域と連携し、教育環境を充実・整備する。	すべての人の学校運営への参画意識の向上を図る。	学校からのたよりやウェブサイトを通して教育活動を積極的に保護者・地域に発信する。また、地域・保護者に学校へ参画してもらえるよう普段から連携を密にし、開かれた学校づくりにつなげていく。	B	・保護者86%の肯定的評価であった。 ・以前より肯定的評価が高まった。様々な場面で活動の様子を伝えることがいくらかできてきたと考える。	・ホームページ掲載のシステム変更があり、使い勝手は改善されたので、より情報発信していく。	A	B	B	B	A	B	B	3.3	B	学校だよりは、毎回楽しみにしている。	保護者へのPRが必要ではないか。			催し物の際、高齢者も含め、お客さんが多いこと大歓迎です。このままお続けください。		概ねよいとの評価をいただきました。保護者の方に活動の様子を見ていただく機会は多くできたと思っています。PTAの活動も含め、保護者の方にも活動に参加していただき、児童の成長を共に考えていただけたらと思います。
6－4		安全・安心な学校づくり	安全指導と保護者・地域との連携	「自分のいのちは自分で守る」意識をもち、交通安全や防災等に対して主体的に行動できる安全教育の充実を図る。	様々な場面を設定し交通安全や災害時の安全確保を身に付けさせる。	A	・保護者91%の肯定的評価であった。 ・安全確保の取り組みは高評価をいただいたが、災害時の対応については「わからない」が33%と、共通理解ができていないと推測できる。	・警察や地域との懇談会等安全についてアンテナを高くし、保護者の方とも連携を図っていく。	A	A	A	A	A	B	A	3.9	A	命にかかわる重要なことなので、安全教育の充実を図っていただきたいと思います。	様々な指導でご苦労さまです。	ここ最近の中で成木も昔とは違うことが出てきているので、地域との連携は重要だと思います。		周囲が熱意を込めて行っておられます。この調子を持続していただきたい。		非常に良いとの評価をいただきました。安全教育を全校だけでなく、学級でもさらに深めるようにしてまいります。

各委員の評価をA=4　B=3 C=2 D=1　として数値化し、平均値をもって学校関係者の評価とした。 ＊平均値をもとに　A≧3.5＞B≧2.5＞C≧1.5＞D　とした。